

2020年3月期 決算説明会

2020年5月14日
副社長 齊藤 雅也

2020年3月期の概況

□ 概況・トピックス

□ 売上、利益とも過去最高を更新

- 塩野義製薬(株)からの契約一時金がなくなったことや業務改革費用の増加を増収により吸収
- アジアは、ASEAN諸国好調により増収増益
- 新型コロナウイルスの影響は、当期は限定的

□ 16期連続増配

□ 国内市場

- 高付加価値品が好調持続
- インバウンド需要は、第4四半期より減少傾向

□ 海外子会社は、アジアが堅調

- 円高元安の影響はあったもののASEAN諸国が好調
-

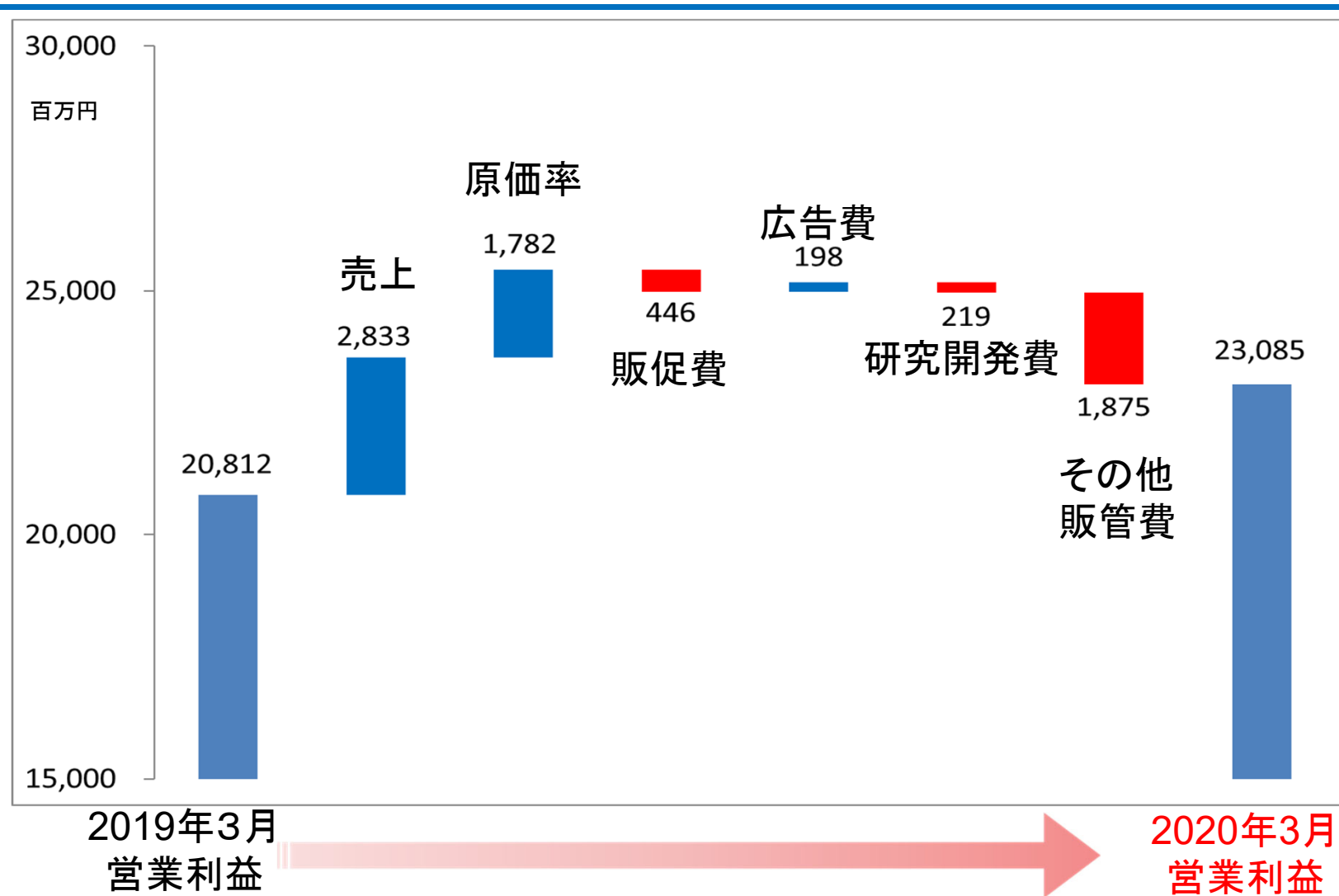
連結損益

(単位 百万円,%)

	2020年3月期	売上高比	2019年3月期	増減額	増減率
売上高	188,327	100.0	183,582	4,745	2.6
売上原価	74,087		73,958	128	0.2
原価率	39.3		40.3		
販管費	91,154	48.4	88,812	2,342	2.6
販促費	23,533	12.5	23,086	446	1.9
広告費	24,394	13.0	24,593	△198	△0.8
研究費	7,050	3.7	6,831	219	3.2
その他	36,175	19.2	34,300	1,875	5.5
営業利益	23,085	12.3	20,812	2,273	10.9
経常利益	22,735	12.2	18,970	3,764	19.8
親会社株主に帰属する純利益	15,410	8.2	9,799	5,610	57.3

為替レート:USDドル=109.05円(前年同期 110.48円)

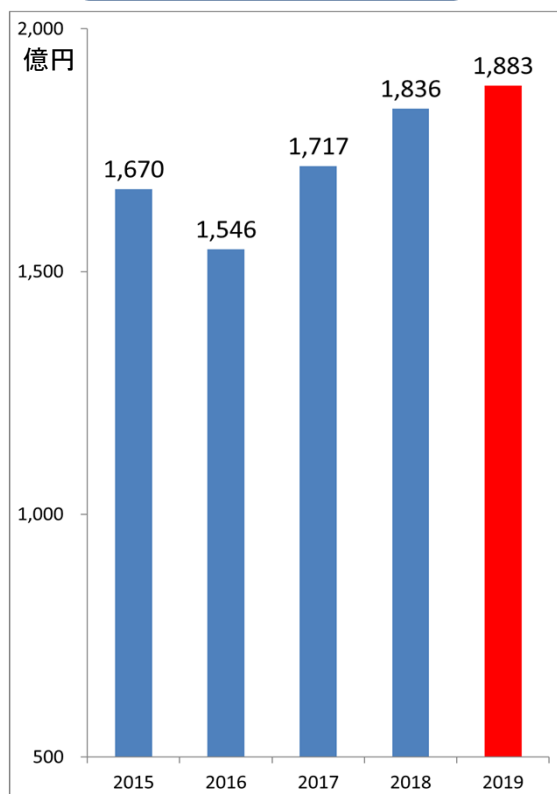
連結営業利益の増減



業績推移(5年)

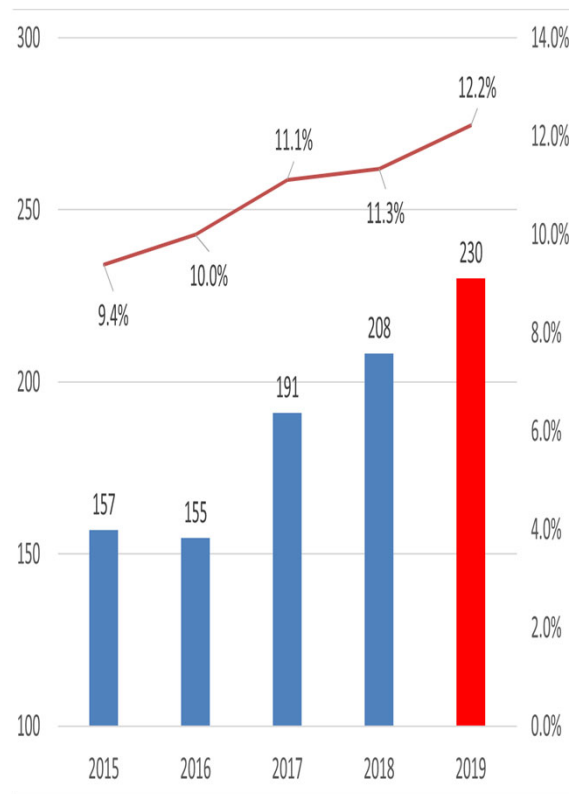
売上高

5年平均増収率
4.6%



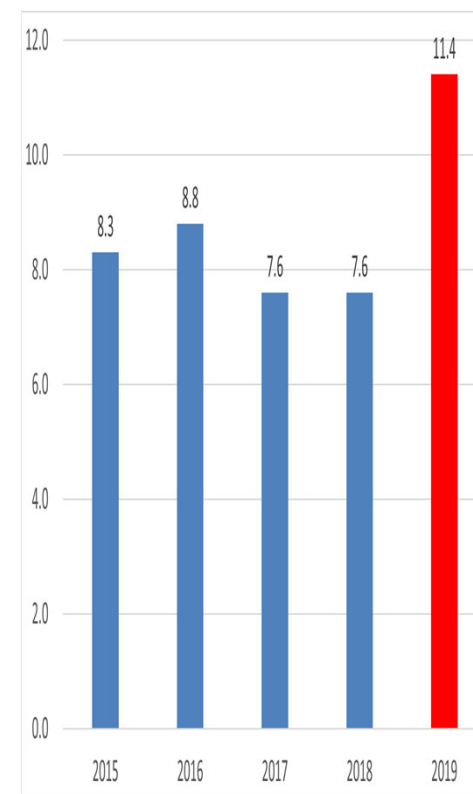
営業利益

営業利益率
12.2%

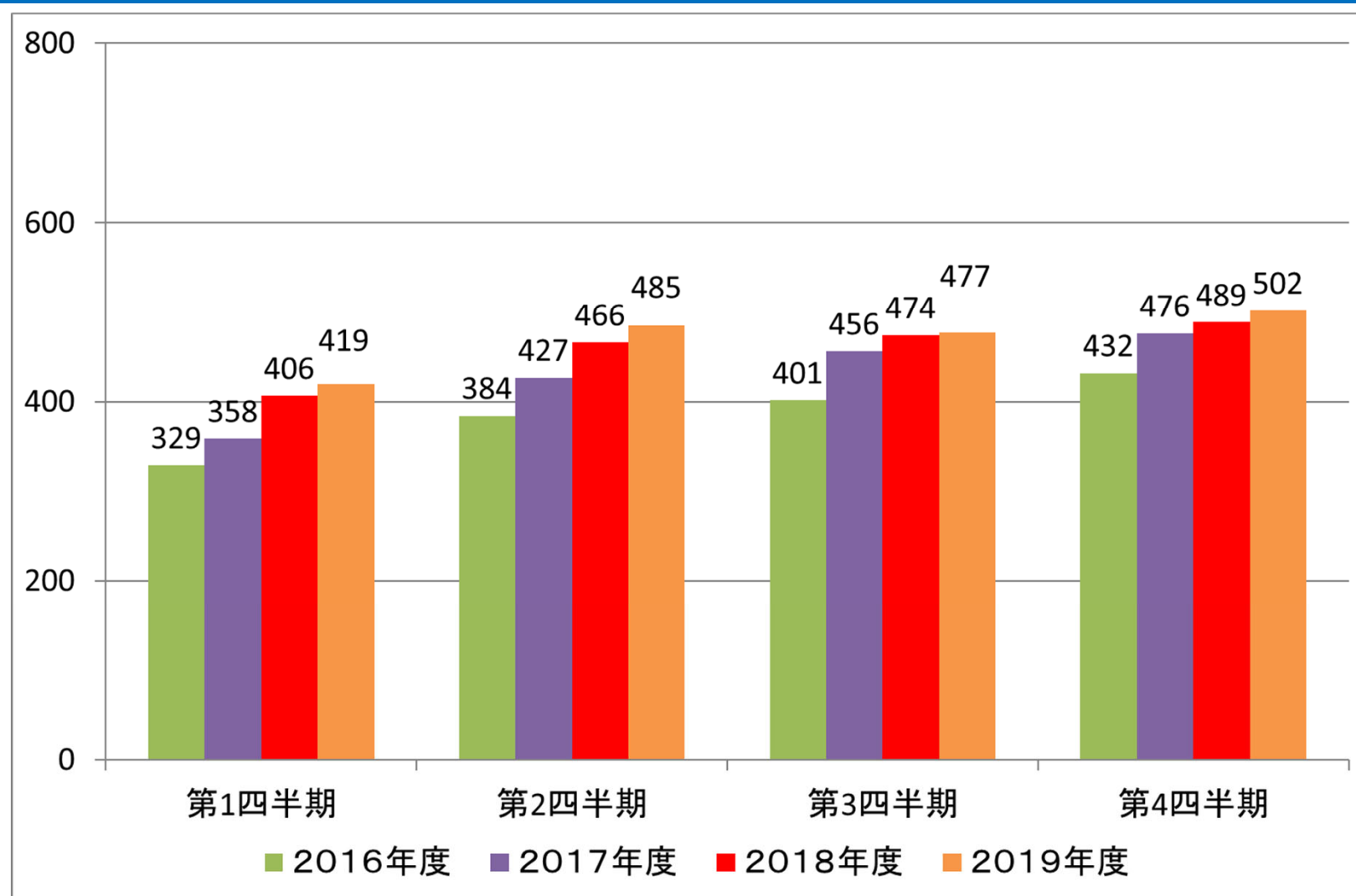


ROE

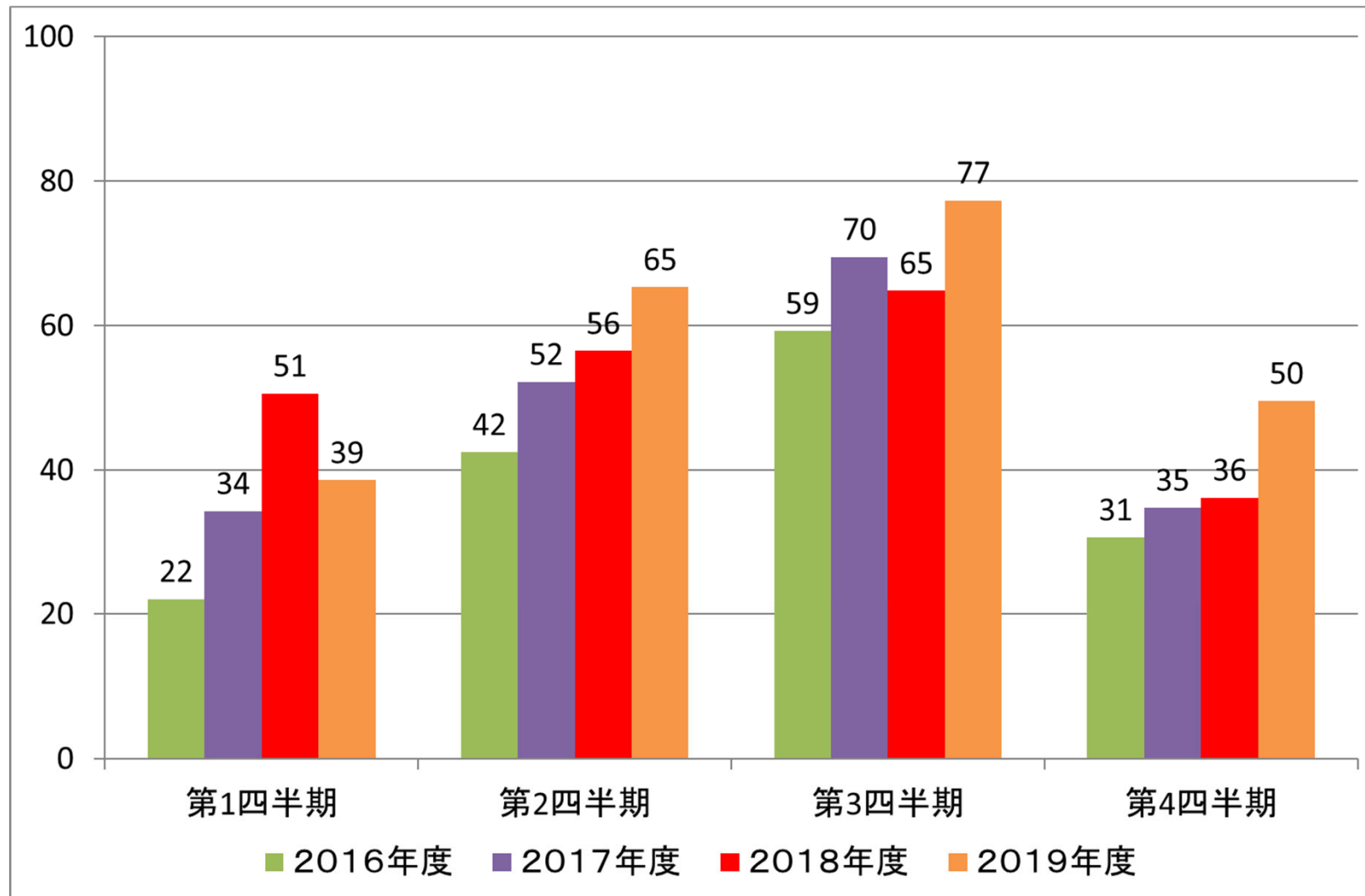
5年平均 **8.7%**



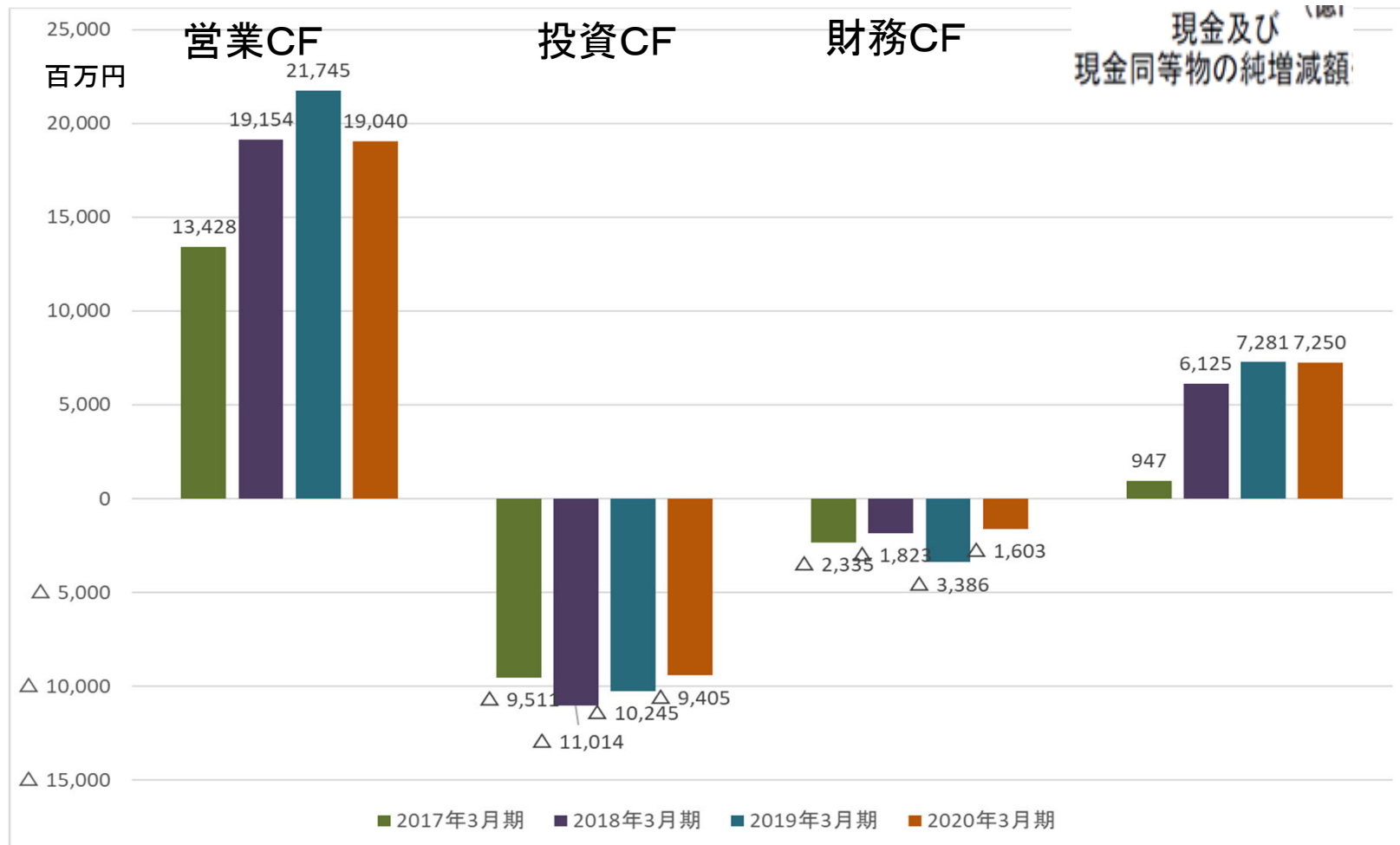
四半期別売上推移



四半期別 営業利益推移



中長期の投資を実施しながら、 フリーキャッシュ・フローはプラス



キャッシュフローの推移

報告セグメント別売上

(単位: 百万円、未満切捨, %)

	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
売上高	171,742	100.0	183,582	100.0	188,327	100.0	4,745	2.6	
報告セグメント	日本	105,242	61.3	112,166	61.1	115,767	61.5	3,601	3.2
	アジア	47,396	27.6	51,664	28.1	52,971	28.1	1,306	2.5
	アメリカ	8,750	5.1	9,293	5.1	9,121	4.8	△ 171	△ 1.8
	ヨーロッパ	8,277	4.8	8,555	4.7	8,740	4.6	185	2.2
	計	169,666		181,679		186,601			
その他	2,076	1.2	1,903	1.0	1,726	0.9	△ 177	△ 9.3	
為替レート (USD/円)	111円43銭		110円48銭		109円05銭				

※ 売上高は外部顧客に対するものです

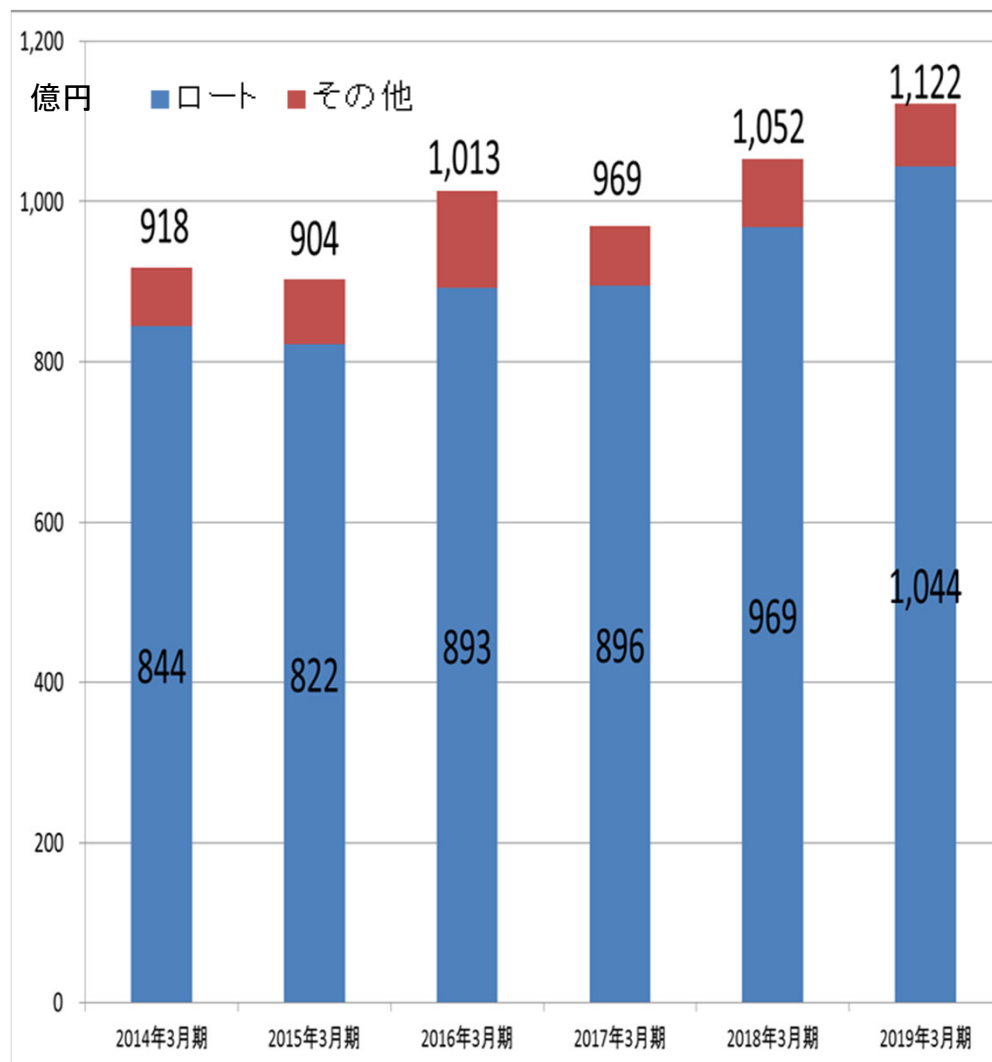
報告セグメント別営業利益

(単位:百万円、未満切捨,%)

	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
営業利益	19,087	100.0	20,812	100.0	23,085	100.0	2,272	10.9	
報告セグメント	日本	12,223	64.0	13,181	63.3	14,852	64.3	1,671	12.7
	アジア	5,670	29.7	6,497	31.2	7,220	31.3	723	11.1
	アメリカ	420	2.2	286	1.4	283	1.2	△ 2	△ 0.8
	ヨーロッパ	305	1.6	352	1.7	217	0.9	△ 135	△ 38.3
	計	18,619		20,317		22,573		2,255	
その他	157	0.8	163	0.8	142	0.6	△ 21	△ 13.0	
調整額	310	1.6	330	1.6	369	1.6	38		
為替レート (USD/円)	111円43銭		110円48銭		109円05銭				

日本 増収増益

- 高付加価値品好調
 - 高額目薬
 - オバジCセラム
- 話題の商品が好調
- インバウンド需要は減少
- 医薬品開発・製造受託子会社が増収増益に寄与



高付加価値商品 堅調



Vロート プレミアムシリーズ



エピステーム 越境ECだけでなく、
百貨店売り場への展開を強化

C25を中心にCシリーズが好調



オバジC25
セラム ネオ

話題の商品群

SNSで「デオコおじさん」で話題となり
 新聞等メディアでも多数取り上げられた「デオコ」



高額目薬との連動した店頭展開で
 好調持続する「ロートV5粒」



目のサプリメント
ロートV5粒
 機能性表示食品



「デオコボディクレンズ石けん」

インバウンド売上 約28億円

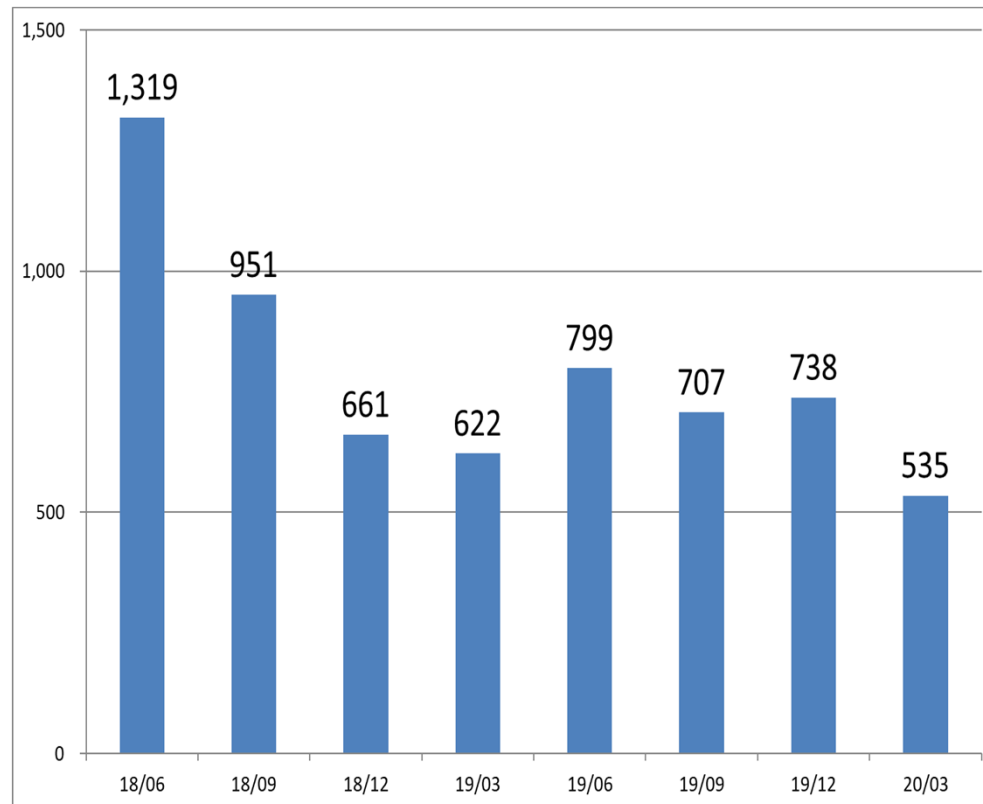
新型コロナウイルスの影響で、スローダウン。



圧倒的人気のメノCC シリーズ



エピステム ステムサイエン
ドリンク

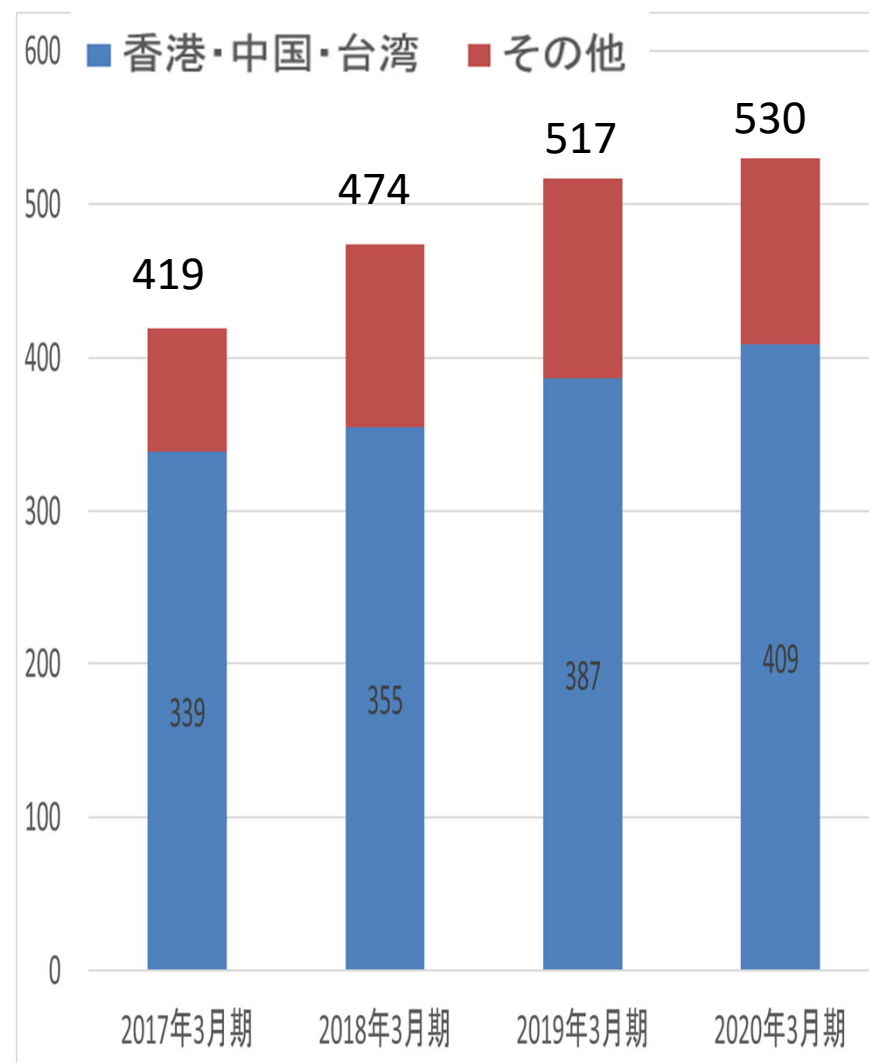


インバウンド関連四半期売上の推移

アジア 増収増益

- ASEAN諸国 堅調
 - マレーシア 30%増収 億円
 - ベトナム 15%増収
 - インドネシア 10%増収

- 中国・香港 減収
 - 香港デモの影響
 - 元安円高の影響
 - 台湾は堅調
 - ECが伸長



中国でのECへの取り組み

□ 中国 エコマース

- オンライン強化で、売上比率30%へ
- 1月以降も、増加傾向で出荷ベースでは30%超

□ 越境ECの強化

- メラノCC
- エピステーム
- ケアセラ 等



エピステーム ステムサイエンスドリンク

アメリカ・ヨーロッパ 他

□アメリカ 売上91億21百万円 前期比△1.8%減
営業利益 2億83百万円 同△0.8%減

- 目薬競争激化
- ロートクールマックス



□ヨーロッパ 売上 87億40百万円 前期比 2.2%増
営業利益 2億17百万円 同△38.3%減

- ディープリーフ好調
- 販促広告費増で減益
- DAX堅調



DeepRelief シリーズ



Perfecta シリーズ

2021年3月期 通期見通し

2020年5月14日

代表取締役会長 山田 邦雄

代表取締役社長 杉本 雅史

次期見通し ポイント

- 新型コロナウイルスの影響により減収減益見込
 - 新型コロナウイルスの影響と対応
 - 中長期の持続的成長への取組
 - コアビジネスの強化
 - 消費者の生活行動変化への対応
 - 再生医療・眼科医療用医薬品の取組
 - 17期 連続増配予定
-

次期 業績見通し

(単位:百万円、未満切捨,%)

	2019年3月期	売上比	2020年3月期	売上比	2021年3月期 予想	売上比	増減額	前期比
売上高	183,582	100.0	188,327	100.0	183,000	100.0	△ 5,328	△ 2.8
営業利益	20,812	11.3	23,085	12.3	21,800	11.9	△ 1,286	△ 5.6
経常利益	18,970	10.3	22,735	12.1	22,100	12.1	△ 636	△ 2.8
親会社株主に帰属 する当期純利益	9,799	5.3	15,410	8.2	14,000	7.7	△ 1,411	△ 9.2
1株当たり 当期純利益(円)	86.00		135.13		122.73			

為替レート
 USD/円

110円48銭

109円05銭

107円

報告セグメント別売上予想

(単位:百万円、未満切捨,%)

		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期予想			
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高		183,582	100.0	188,327	100.0	183,000	100.0	△ 5,328	△ 2.8
報告セグメント	日本	112,166	61.1	115,767	61.5	114,100	62.3	△ 1,668	△ 1.4
	アジア	51,664	28.1	52,971	28.1	50,700	27.7	△ 2,272	△ 4.3
	アメリカ	9,293	5.1	9,121	4.8	8,500	4.6	△ 622	△ 6.8
	ヨーロッパ	8,555	4.7	8,740	4.6	8,100	4.4	△ 641	△ 7.3
	計	181,679		186,601		181,400			
その他		1,903	1.0	1,726	0.9	1,600	0.9	△ 127	△ 7.4
為替レート (USドル/円)		110円48銭		109円05銭		107円			

※ 売上高は外部顧客に対するものです

報告セグメント別営業利益予想

(単位:百万円、未満切捨,%)

		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期予想			
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
営業利益		20,812	100.0	23,085	100.0	21,800	100.0	△ 1,286	△ 5.6
報告セグメント	日本	13,181	63.3	14,852	64.3	14,300	65.6	△ 553	△ 3.7
	アジア	6,497	31.2	7,220	31.3	6,700	30.7	△ 521	△ 7.2
	アメリカ	286	1.4	283	1.2	200	0.9	△ 84	△ 29.5
	ヨーロッパ	352	1.7	217	0.9	100	0.5	△ 118	△ 54.0
	計	20,317		22,573		21,300			
その他		163	0.8	142	0.6	100	0.5	△ 43	△ 29.8
調整額		330	1.6	369	1.6	400	1.8		
為替レート (USドル/円)		110円48銭		110円48銭		107円			

新型コロナウイルスの影響と対応

新型コロナウイルスの影響と対応

1. 短期的な事業への影響

- 外出自粛の影響により、日焼け止めなどスキンケア関連品への影響が懸念される
- インバウンド需要の低迷

2. 生産の状況

- 主力の日本・中国は通常どおり
- 欧米においては、回復傾向

3. 社内体制について

- 卒煙など健康経営の推進
- 時差出勤・テレワークの推進

4. 支援について

- 新型コロナ対応医療機関支援室を新設

短期的な事業への影響

【国内の販売状況】

- ドラッグストアや、コンビニは営業しており影響は限定的。
- アマゾンなどECは堅調。
- マスク着用による肌荒れ対策によるスキンケアにはニーズ

- GMSは、減収傾向
- 外出自粛に伴う影響として、日焼け止めなど影響が懸念される。
- インバウンド需要の減少。

【海外の販売状況】

- ロックダウンの影響はあるが、回復段階の地域が出てきている。
 - ベトナム・インドネシアは堅調
 - 中国回復傾向
 - 欧米は不透明

- ECによる販売が、各エリアとも増加傾向。

生産・流通面への影響

□ 生産面への影響

- 中国は2月中旬から稼働
- 日本は特に問題なし
- 欧米は、ロックダウンの影響があるものの、基本的に医薬品メーカーのため規制対象でない部分もある。

□ 調達・流通面への影響

- 主力の日本、中国とも原材料や製品在庫については大きな問題はない。
 - 日本では、抗菌など新型コロナ特需となるような商品の扱いは少なく、調達不安も少ない。
 - 米国においては、メンソレータムが風邪に伴う諸症状の緩和に効果があると好調に推移しておりますが、容器不足の可能性も考えられる。
-

感染拡大防止と事業継続の体制維持

□ 従業員の健康・安全確保の取組

□ 日頃の健康維持に向けた活動【健康経営の推進】

- ・ 喫煙していない社員比率 99.9%達成
- ・ 新型コロナウイルス対応のための社内への情報発信の徹底

□ 毎朝、体温など体調の変化をシステムを通じて報告

□ 時差出勤・テレワークの推進

- ・ 在宅勤務を基本とし、入社頻度も3割以下とする。
- ・ 生産部門、物流、情報システムなどへ部外者入室禁止。

□ 新型コロナ対応医療機関支援室を新設

- 最前線の医療機関や従事者の方をサポートするため、医療用グレードのマスクや防護服を医療機関へ寄付。さらに、ハンドクリームなど自社製品も提供。

- NGO団体 ジャパンハーツソーシャルネットワークに協賛
-

中長期の持続的成長への取組 ～消費者の生活行動に変化～

中長期の持続的成長への取組

- コアビジネスの強化
 - 業務改革の深化と自走化
 - 生産設備の増強
 - コーポレートガバナンスの強化
 - 消費者の生活行動変化への対応
 - 未病・予防対策への取組
 - テレワークなどの浸透への対応
 - 持続的成長への取組
 - 再生医療の進捗
 - 医療用医薬品への展開
 - エマージング市場への展開
-

コアビジネスの強化

業務改革の深化と自走化

□ 原価率の改善

- 返品率の低減
- 自社製造比率の向上
- 原材料や商品調達の見直し

□ 販管費の効率的活用

- デジタル化に伴い、広告費比率の低減
- ブランド・アイテムの集約

外部の知見に頼らず、業務改革を推進する体制を構築！

生産設備の増強

三重県の上野テクノセンターにおいて人と環境に配慮したスマート工場を増設(2022年竣工予定)。

人にやさしい
スマート工場

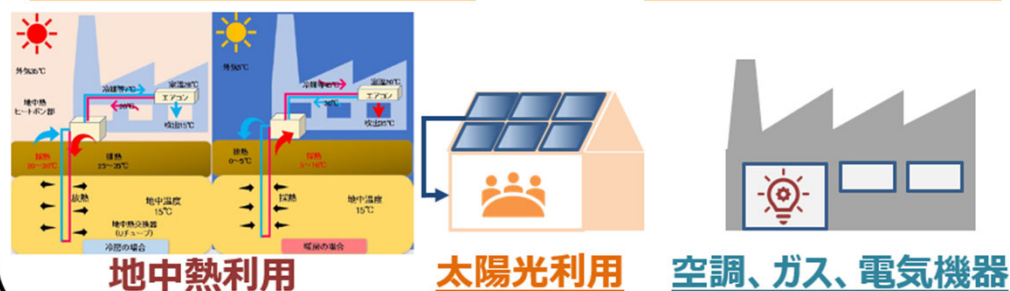
環境に
やさしい工場

グローバル
GMP

エネルギー全般

再生可能エネルギーの活用

省エネ機器の活用



既存工場比で、年間20%以上のエネルギー削減を目指す

コーポレートガバナンスの強化

□ 経営体制の強化

- 取締役会 社内6名、社外3名体制へ
- 執行役員制度の導入
 - 監督と執行の分離
- 社外取締役・社外監査役の強化
- 補欠監査役に関する規定を新設

□ 投資有価証券の削減

- 日本点眼薬研究所取得費用の一部として、投資有価証券を売却

人々の健康に貢献できるヘルスケア企業として
商品や情報提供を強化

□生活行動の変化への対応

□テレワークの浸透

- ・ PCやタブレット、スマートフォンの利用拡大による目の酷使

□セルフメディケーションの広がり

- ・ 感染リスクを避けるため、手洗いによる肌荒れなどはOTC薬で対応するケースが増加

□未病・予防領域での取組み強化

□健康経営の推進

再生医療・医療用医薬品の取組

□再生医療の進捗

- 心不全の医師主導治験の開始

□培地・細胞受託加工ビジネスの進展

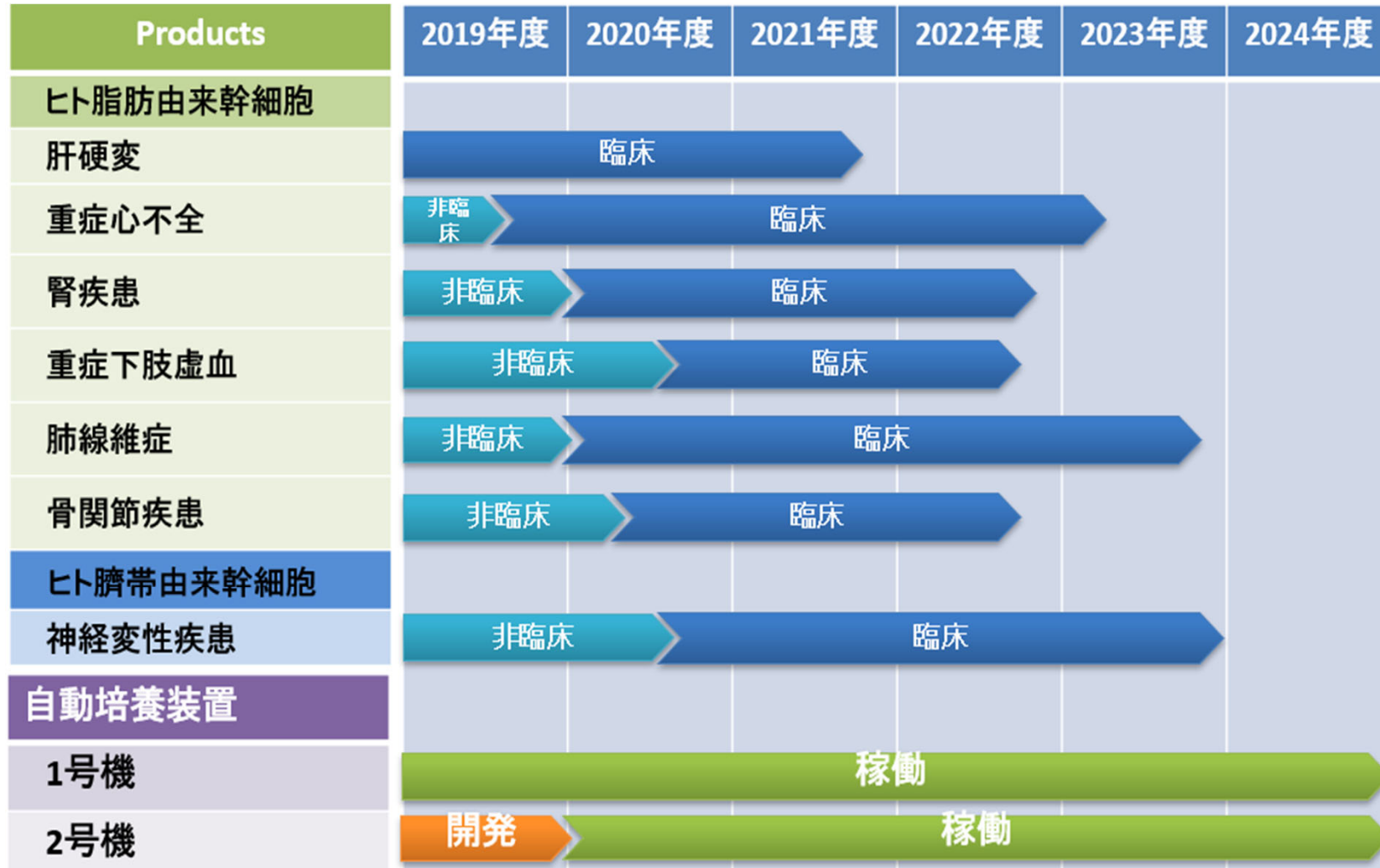
- ヒューマンライフコードとの提携

□眼科領域での医療用医薬品への取組

- 日本点眼薬研究所の活用

- わかもと製薬との業務提携

再生医療の進捗



心不全 細胞スプレー治療

- 阪大病院の澤芳樹教授らの研究グループは、細胞を心臓表面に直接投与する「細胞スプレー法」を開発
- 2019年11月から、虚血性心筋症患者を対象に「ADR-002K」の医師主導治験(第I相試験)を開始。
- ロート製薬と2016年に共同研究講座を設立し共同研究することによって、均質性と品質を担保した同種脂肪組織由来間葉系幹細胞を利用して、用時調製可能で簡便な投与技術の開発に成功！



積極的な業務提携

【培地・細胞受託加工ビジネスの進展】

□ ヒューマンライフコード、アルフレッサと提携

ヒューマンライフコードが開発を進めている臍帯を原材料とする間葉系細胞の医薬品化に向け業務提携し、アルフレッサとも連携して本格的な検討を進めていく。

【医療用医薬品への展開】

□ 日本点眼薬研究所の活用

□ わかもと製薬との業務提携

□ 医療用眼科医薬品の共同開発ならびに販売

□ わかもと製薬が有する乳酸菌を活用した OTC 医薬品や健康食品の共同開発販売

エマージング市場への展開

□ 東欧・ロシアでの布石

- DAX社を拠点に東欧諸国へ展開予定

- ロシア現地法人の設立

□ 中東

- トルコ レブル社への出資

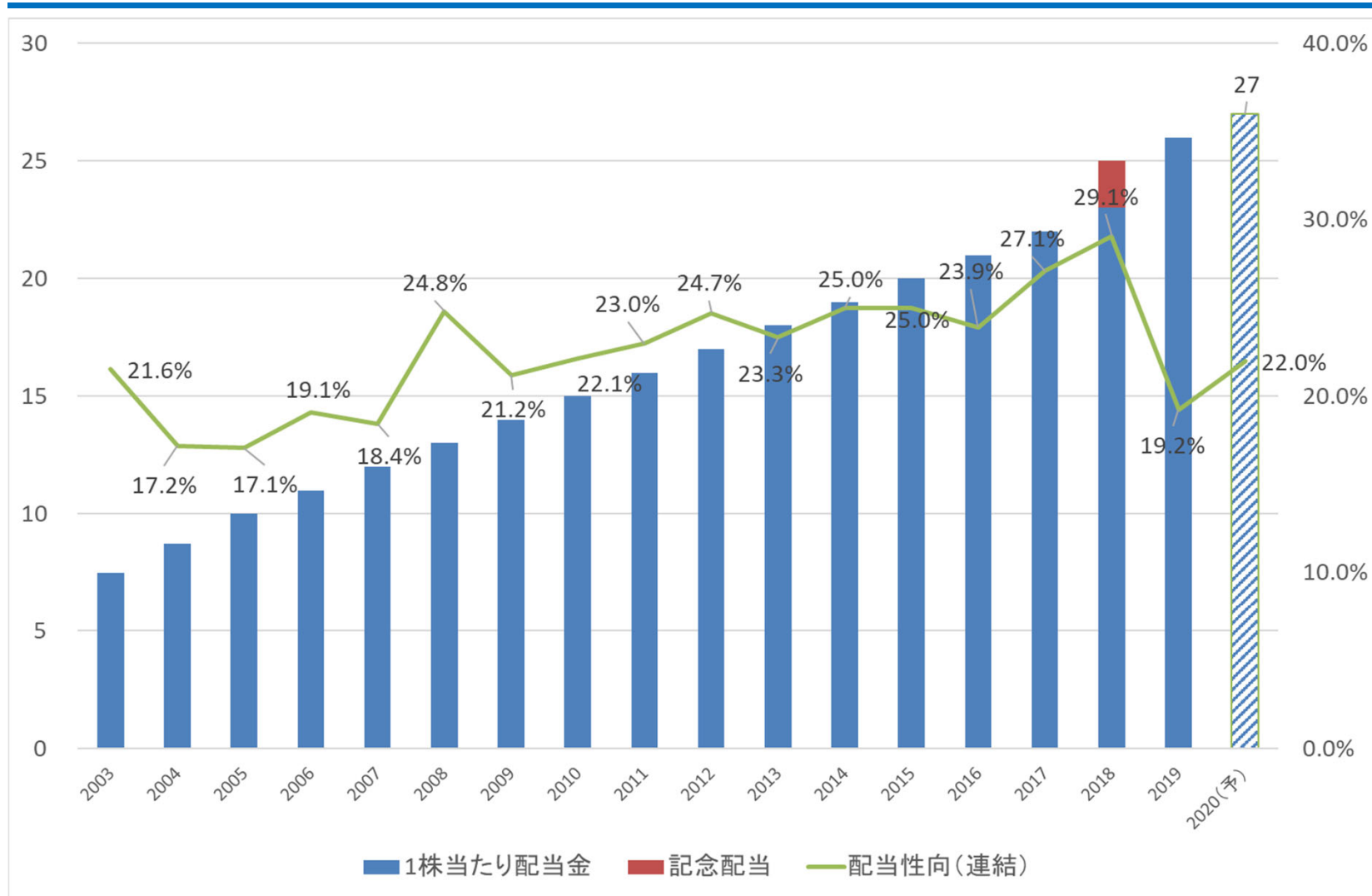
新型コロナウイルスの感染拡大で、トルコ伝統の香水「コロンヤ」の需要が急増。トルコ版のオーデオロンで、エタノールが主成分になっていることから消毒に効果があるとして見直された模様。

□ 南米

- ブラジル子会社の再編

□ インド・バングラデシュの縮小

17期連続増配予定



新型コロナウイルス危機に際して

2020年3月期

過去最高の売上・利益を達成

- 日本・アジアで増収増益
- 新型コロナウイルスの影響は限定的
- 消費税増税の影響
- 米中摩擦拡大の懸念
- 暖冬など天候要因
- インバウンド需要の減少

2021年3月期

減収減益の見通し ～事業環境の激変！

- 新型コロナウイルスの影響
世界的な消費の落ち込み
生活行動の変化
- 長期視点での経営
経営基盤の強化
財務基盤は良好
消費者の変化に対応
健康寿命延伸に向けた投資

＜注意事項＞

この資料に記載されている当社の現在の業績、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。したがって、実際の業績は様々な要因の変化により記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。